

楽たま通信

令和元年度

No.38



「ふるさとまつり」に何らかのかたちで参画できないか。



昨日、吉敷地域最大の地域イベントの「吉敷ふるさとまつり」が盛大に開催されました。昨年以上に子ども達の参加が見られ、地域意識の伸長をうれしく思いました。

オープニングイベントでは、合唱団が美しい合唱を披露し、まつりのスタートを飾ってくれました。

このまつりは、地域の各種団体が参加してのまつりであり、多様な出演、出店を通して、まつりを盛り上げるとともに、活動のアピールをされていました。本校PTAや子ども会も出店されていました。

最後の参加となる今年、私は、わたがし、ミニケーキ、高級シチュー、くじ引き、レノファグズと、地域住民のごとく思いっきり楽しみました。PTA販売の綿菓子は、これ見よがしに食べ歩き、店の宣伝を兼ねました。

楽しむと同時に、いつか、良城小でも、このまつりに子ども達は何らかの形で参画するようになることを願いました。

前任校では、中学生は、企画や準備にかなり関わる活躍をしていましたが、小学生も、雄志による運動会の踊りの披露と中学生と一緒にスタンプラリーコーナーを担いました。

下関の学校では、4年のゴミ学習の一環として、まつりのゴミの分別のためのポスター作成や当日の呼びかけ、まつり翌日のゴミ分別の手伝いをしたりしました。私の異動翌年は職員が仮装出演して盛り上げたとも聞いています。

職員の手もかかるので、厳しいとは思

ますが、いつか、ボランティアとしてこんな活動も行う学校となってほしいと思います。まつりは、授業の一環としての大きな「本物の場」の一つでもあります。

地元のまつりを盛り上げるために、自分たちでできそうなことを考え、実践する自主的な子どもが出てくれるといいですね。そのためには、最初は、学校としても少し手伝いをする時期が必要です。何か、いいアイデアはありませんか。

合唱団の貢献以外にも、何かが始まることを願っています。



先日、「子どもの安全を守る諸団体の意見交換会(11月27日)」の開催案内が来ました。

これは、吉敷地域ふれあいネットワーク協議会が初めて開催する会で、開催趣旨書には、「子どもの安全を守る活動をしている各団体の抱えている諸問題について意見交換し、今後の活動に生かしていく」とあります。通学路を共有する7地区に分かれた分科会協議も予定されています。

地域の方が、子ども達のためにこんな協議を始めていただく地域であることを大変うれしく思います。私も積極的に意見を発していくつもりです。学校も地域の熱意に応えていきましょう。

♪♪ 第1回ハーモニカ演奏交流会を、11月20日(水)昼休みに、音楽室で行います。ご興味のある方はどうぞ。♪♪